



# 理振協会会報

編集：(公社)日本理科教育振興協会 広報委員会  
制作：株式会社 大洋堂



公益社団法人 日本理科教育振興協会  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28  
TEL: 03-3294-0715 FAX: 03-3294-0716  
URL: <https://www.japse.or.jp>

## CONTENTS

### ■ 新年のごあいさつ (p1)

- 日本理科教育学会第73回全国大会を終えて (p5)
- 全小理全国大会を終えて (p5)
- 令和6年度 政府予算案が発表されました (p5)

### ■ 令和5年度 理科教育予算増に向けた活動 (p6)

- 第11回科学の甲子園ジュニア全国大会が  
開催されました (p6)
- 令和5年度 復興教育支援事業 (p7)
- 令和5年度 理科教育設備整備費等  
補助金事業・台帳説明会開催 (p7)



## 謹 賀 新 年



### 本年も「理科の授業は理科室で!!」運動を展開してまいります

公益社団法人 日本理科教育振興協会  
会長 大久保 昇



新年明けましておめでとうございます。

昨年は協会の事業に多くの方々からご協力をいただき、コロナ禍前の水準以上に活動を戻せました。ここで関係各位の皆様のご支援に深く感謝を申しあげる次第です。

さて昨年のノーベル生理学・医学賞にはハンガリー出身のカタリン・カリコ氏とアメリカのドリユー・ワイスマン氏が受賞されました。多くの人々が待ち望んだ新型コロナウイルスワクチンの開発に、長く研究されてきたmRNA (メッセンジャーRNA) の利用技術を活用し、パンデミックからわずか1年でワクチンの実用化が成功されました。

カタリン・カリコ氏は女性科学者。受賞決定後、日本科学未来館でカリコ氏の研究業績や半生を紹介する展示が開催されました。30歳の時に研究を続けるための予算が少ないハンガリーから、家族揃ってアメリカに移住されることを決意します。しかし、アメリカにおいても、研究の意義が理解されずに大学を転々とする不遇の事態が続いたそうです。そのような困難にもかかわらず、最終的に偉大な成果を挙げられたのです。女性の理系進学者が少ないことが大きな課題として存在する日本。女性のカリコ氏が研究と個人の生活の両方で充実した人生を送られたことが、日本での女性科学者の育成につながればと期待しております。

そのカリコ氏は、ノーベル賞受賞後のインタビューで「もっと多くの子供たちに科学者になってもらいたい。世界はもっと多くの科学者が必要であり、科学者になることは楽しいですから」とお話しされました。我々理科教育関係者にはとても有難い、強いメッセージです。科学の最初の一步は小学校の理科教育。子供たちが理科好きになり、その興味関心を大人になっても継続してほしいものです。科学には世の中を大きく変える無限の可能性があることを強く訴えていきたいと思ひます。

ただその実現のためには、児童生徒たちに多くの観察実験を体験してもらうことが必要です。しかしながら、観察実験機器の充足状況は改善しないことと、使えない老朽化した観察実験機器が多く在ることが継続しており、日本の現状としてせっかくの新たな学びの方向にまだまだ進めないでおります。

本年も、理科教育設備整備費等補助金事業をより一層普及させることを目指し、都道府県教育委員会を通じて傘下の市町村や私立学校に、申請手続きや理科教育設備整備台帳作成の指導を行う講習会を、精力的に実施してまいります。また女性の理系選択の増加に向けて協会としてできることがないかを考えていきたいと思ひます。

全国すべての学校の理科室が楽しく科学に興味関心が深まる場になるよう、より一層理科教育環境向上に鋭意努力していく所存です。本年もご支援、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。



# 謹 賀 新 年



副会長 中村 友香

副会長 小林 啓介

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

令和5年は、5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられたことにより、まだまだ脅威は続いておれども、長かったコロナ禍がようやく明けた印象が強い一年でした。学校では対面授業が再開され、観察・実験を伴った授業が復活し、日増しに学校の活気が増してきていることを実感しております。

理振協会がご支援した全国小学校理科研究協議会研究大会神奈川大会、全国中学校理科教育研究会東京大会、日本理科教育大会和歌山大会、日本理科教育学会全国大会高知大会、いずれも来場者制限が解除され対面方式に切り替えられ、大変活気のある大会となりました。会員企業による展示が再開されましたことも、会員の一人として大変喜ばしく感じております。

経済協力開発機構（OECD）が2022年に実施した学習到達度調査（PISA）で、日本は前回18年調査では5位であった科学的リテラシーが2位に上昇した結果となりました。この素晴らしい結果は、コロナ禍においても学びを止めることなく、ひたむきに教壇に立たれた全ての先生方のご尽力の賜物であり、最大限の敬意を表したく存じます。

令和6年辰年は、全ての子どもたちの学びが更に充実し、意欲と達成感が昇り龍の如く上昇する年となるように、会員の皆様と共に、更に推し進めて参りたく存じます。本年も、よろしく願い申し上げます。



副会長 西松 正文

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年はAI（人工知能）という言葉が耳にしない日はない程、話題になりました。AIと共創していく社会や時代において、相応しい理科教育というのはどういったもののでしょうか。AIの活用はおおいに期待されるようですが、大きく2つの見方があるようです。一つは、人の創造力を奪うのではないかという議論と、もう一つは、物事の進歩や障壁を従来にない方法によって突破し、むしろ飛躍的なイノベーションを導くという議論です。どちらが正しいかは现阶段では分かりませんが、要は我々の使い方次第ということになるかと思えます。理科は、実験観察を通じて、問題発見・課題解決を主体的に行い探求していく、これからの時代に必要な能力・資質を育む教科です。理科の見方・考え方をしっかりと身に付け、子供たちがこれからの時代を力強く生き抜けるようになってもらいたいと思えます。

理振協会は、「理科の授業は理科室で！」をスローガンに、実験観察を重視し、科学本来の面白さや楽しさを十分に体験できる環境づくりを応援しています。本年も引き続き、理科室の充実、予算拡充などの要望活動に力を入れてまいります。本年もどうぞ宜しくお願い致します。



新春のご挨拶を申し上げます。

昨年はコロナ禍が終息に向かう中、全国の学校の先生方や協会の会員の皆様には心より感謝いたします。

先生方の情熱溢れるご指導により日本の未来を担う素晴らしい人材が育まれることを願っております。

さて、昨年12月には2022年の学習到達度調査（PISA）の結果が発表され、日本は一部上昇も見られて上位をキープしました。03年のPISAショックの後、文部科学省と先生方による日頃からの質の高い教育の成果であります。一方、科学的応用力においてはジェンダーギャップが依然として見受けられ、解消するための啓発活動が重要と考えられます。女子生徒が理系分野に進む機会が増え、リケジョがますます生まれることを期待しております。

日本理科教育振興協会は、これからも皆様と共に歩み、理科教育の更なる充実と向上に全力を注ぎます。先生方のご意見やご要望をいつでもお聞かせいただき、より良い未来への一翼を担えることを願っております。

新しい一年が皆様にとって輝かしいものとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。ますますのご活躍を期待しております。



副会長 中井 泉

新年あけましておめでとうございます。

昨年7月に国際物理オリンピック2023（IPhO2023）日本大会が東京で開催されました。当社はその国際物理オリンピックの当日の試験用の物理実験装置2種を採用頂き、大会に寄与できたことは本当に大きな喜びでした。今回のプロジェクトは極秘のミッションだったため、直前まで社長の私も実際の実験装置を見ること出来ませんでした。プロジェクトメンバーは知恵を結集させて、大仕事をやり遂げてくれました。

日本は2017年インドネシア大会以来、6年振りに2名が金メダルを獲得、残る3名も銀メダルを獲得し、優秀な成績を修めたことも我々の喜びを増加させてくれました。

一方で、国別では中国、韓国、それに個人参加の資格ながらロシアが全員金メダルの快挙を成し遂げています。

2024年年初に当たり、日本が彼らに肩を並べることが出来るように、少しでも日本の理化教育に貢献して行きたいと心新たに思う次第です。

本年もよろしくお願い致します。





## 謹 賀 新 年



## 文部科学省初等中等教育局教育課程課長 常盤木 祐一

新年あけましておめでとうございます。

貴協会におかれましては、日頃から子供たちや教師が観察、実験で活用する優れた理科教材を開発するなど、理科教育の充実・発展に多大なる御尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

現在、わが国では、政府を挙げて科学技術イノベーションの推進に取り組んでおりますが、科学技術を担う人材の育成に向けては、高等教育における改革はもちろん、そこにつながっていく初等中等教育段階における理数教育の一層の充実が大変重要です。

このような中、学校現場では、一人一台端末も積極的に活用しながら、子供たちの科学技術への興味・関心を高め、科学的に探究する力を育成するため、様々な創意工夫を凝らした教育活動が展開されています。

文部科学省としては、本年も、こうした教育活動をしっかりとお支えるため、観察、実験活動に必要な理科設備整備を支援するとともに、情報、数学、理科等の教育を重視するカリキュラムを実施する高等学校における環境整備の支援や理科好きな児童生徒を育む取組を推進するなど、子供たちの資質・能力を育むための施策を講じてまいりますので、引き続き、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、貴協会の更なる御発展と、皆様の一層の御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。

## 文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤枝 秀樹

新年あけましておめでとうございます。

貴協会におかれましては、日頃より理科教育の充実と発展のために御尽力いただき、心より御礼申し上げます。

昨年12月には、PISA2022（OECD生徒の学習到達度調査）の結果が公表されました。この調査は、義務教育修了段階の15歳の生徒が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測ることを目的とした調査であり、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について、概ね3年ごとに調査を実施しているものです。PISA2022は81か国・地域から約62万人が参加し、日本からは約6,000人が参加しました。その結果、日本は全ての分野において世界トップレベルでしたが、中でも、科学的リテラシーはOECD加盟国中1位（全参加国・地域中2位）でした。このことは、学習指導要領の基本的な考え方である「科学的に探究する学習を充実すること」と「日常生活や社会との関連を重視すること」について、学校現場の先生方の御尽力により、着実に改善が進んできているからではないかと考えています。これらを今後も一層進展させていくためには、児童生徒が観察・実験・実習などを十分に行うことができる学校の環境づくりが欠かせません。

貴協会には、引き続きの御支援・御協力をお願い申し上げますとともに、益々の御発展を祈念いたします。

## 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 真井 克子

新年あけましておめでとうございます。

貴協会におかれましては、平素より理科教育の充実のためにご尽力をいただき、心より感謝申し上げます。

私は、昨年4月に中学校第1分野、高等学校化学担当として着任いたしました。それまでは、奈良県立の



高等学校で理科教諭として勤務し、奈良県立教育研究所や奈良県教育委員会事務局の指導主事として行政でも勤務してまいりました。貴協会が、小学校、中学校及び高等学校等における理科の観察・実験を支えてくださっていることを実感しております。

理科においては、観察・実験が欠かせません。現行の学習指導要領に基づく教育課程が年次進行で段階的に行われている高等学校においても2年目となりますが、「見だして理解する」といった、探究の過程を通して知識の習得を図る表現が加わる等、授業における観察・実験を通して生徒たちが見いだす場面の設定が重視されています。科学的に探究することが、児童・生徒の資質・能力の育成につながりますので、貴協会には引き続きの御支援、御協力をお願いいたします。

最後に、貴協会の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

## 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 小林 一人

新年、明けましておめでとうございます。

昨年貴協会におかれましては、理数教育の充実・発展のためにご尽力くださり、誠にありがとうございます。ありがとうございました。

急激に変化する時代の中で、一人一人の児童生徒においては、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。学習指導要領では理科の授業で育成すべき資質・能力としては「科学的に探究する力」をあげています。昨年いろいろな学校に訪問させていただき、様々な工夫されて科学的に探究する場面を設定されている授業を見学させていただきました。

貴協会には、各学校で科学的に探究する活動が更に充実・発展し、児童生徒の資質・能力の育成が図られるよう、本年も引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。

最後に、貴協会の益々のご発展と皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。

## 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 有本 淳

新年あけましておめでとうございます。

貴協会におかれましては、平素より理科教育の充実のためにご尽力いただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染は、5類感染症になりました。私達は、これまでを教訓に、様々な注意を払いながらの新たな生活様式で日常を送っています。しかし、そのような中、季節外れのインフルエンザの流行やアデノウイルス感染症の流行など、予測できなかった事態も起こっています。これら、予測できなかった事態にも、これまでの教訓を生かし、乗り越えていっています。そこに至るまでに、データを基に事実から解釈を行うなど、問題を科学的に解決する力を私達が獲得していることに他なりません。そのためには、理科という教科がとて大きな役割を果たしています。

学校では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行いつつ、ICT端末を活用しながら、理科で育成を目指す資質・能力を育むことに懸命に取り組まれている先生方のご努力には大変感謝いたしますとともに、これらの活動の充実を図るため、貴協会には引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展を祈念いたします。







# 謹 賀 新 年



一般社団法人日本理科教育学会 会長 久保田 善彦

昨年度は、本学会への厚いご支援を賜り、遠隔ではございましたが第73回全国大会（高知大会）を無事開催することができました。また、その折には、大久保昇会長にも開会式でご挨拶いただきました。改めて心より御礼申し上げます。

内閣府の教育・人材育成ワーキンググループは、Society5.0の実現に向けて、探究やSTEAM教育および教育DXの推進、理数系のジェンダーギャップの解消等を重点としています。これまで以上に、小学校から高校までを通して科学的な問題解決や探究における観察・実験がますます盛んになることが期待されます。本学会もそうした理科教育の一層の発展に貢献できるように学会活動を充実させたいと考えております。なお、本年も9月7日（土）から8日（日）の2日間、龍谷大学において全国大会の開催を計画しています。昨年同様、日本理科教育振興協会の皆様からのご支援をお願いしますとともに、本年における貴会および会員の皆様のますますのご発展を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。



日本理化学協会 会長 仁井田 孝春

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、和歌山県の御坊市民文化会館及び県立紀史館高等学校を会場に、全国理科教育大会和歌山大会・第94回日本理化学協会総会を開催致しました。全国から300余名の関係者が参加し、理科教育への熱い思いの込められた実践事例発表・情報交換・意見提示等、貴重な研究協議が展開する有意義な3日間となりました。遠路和歌山まで大久保会長も駆けつけて下さり、激励のお言葉を頂きました。改めて感謝申し上げます。

本年4月より、新学習指導要領の実施3年目となり、全国の高校で新しい教育課程が本格的に展開していきます。各学校には主体的・対話的で深い学びの実現とともに、新たな未来を築く理科教育の一層の推進が求められています。新たな価値の創造を育む理科教育の発展に向け、協会活動を更に充実して全国の先生方を支援したいと考えております。

本年は8月7日（水）～9日（金）に、東京の工学院大学新宿キャンパスにおいて、全国理科教育大会東京大会・第95回日本理化学協会総会を開催する予定です。教育懇話会の再開を含めて大会の完全復活を目指しています。引き続き、ご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、理振協会及び会員の皆様方の益々のご発展を祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。



全国中学校理科教育研究会 会長 石代 俊則

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、東京ビックサイト、ホテルヴィラフォンテース有明を会場に、全中理東京大会を開催することができました。ご多用の中、大久保昇会長はじめ公益法人日本理科教育振興協会の皆様に参加いただくとともに、開発教材コンテスト等、大会開催にあたり、多大なご支援をいただき、改めて御礼申し上げます。

今大会は3年ぶりに制限なしでの対面開催となりました。学習指導要領が全面实施されて3年目、2日目の各分科会では「探究の過程」を踏まえた授業改善や「指導と評価の一体化」のための学習評価、ICTを活用した授業実践などの視点を盛り込んだ優れた研究発表が見られました。参加されました先生方が発表者に直接質問したり、意見交換や感じたことを伝えあったりするなど、会場の雰囲気を感じながら、理科教育に対する熱い思いの込められた研究協議となりました。今大会の発表・協議会などで学んだことを日々の理科授業の質の向上に活かしていただけること、そして、さらなる理科教育の発展を期待しております。

引き続き、ご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、貴協会及び会員の皆様のますますのご発展を祈念し、年頭のあいさつとさせていただきます。



全国小学校理科研究協議会 会長 杉山 勇

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、全国小学校理科教育研究会研究大会神奈川大会を、人数制限等を設けずに実施しました。制限のない開催は、4年ぶりです。大久保会長をはじめ、公益社団法人 日本理科教育振興協会の皆様には、大会1日目に御参会いただきました。また、開発教材コンテスト等、大会開催にあたり多くの御支援をいただきましたことに、感謝申し上げます。

「令和の日本型学校教育」や「新たな教育振興基本計画」など、今後の学校教育の方向性が示される中、学習指導要領に示されている三つの資質・能力をいかに育成していくかという課題の解決に向け、今後も取り組んでまいります。

本年も、引き続きの御支援、御協力をお願い申し上げますとともに、貴会ならびに会員の皆様の御発展を祈念申し上げます。



**日本理科教育学会第73回全国大会を終えて**

一般社団法人日本理科教育学会 会長 久保田 善彦



本年度の日本理科教育学会第73回全国大会（高知大会）は、中城満実行委員長のもと9月23日（土）から24日（日）に対面で開催され、参加者数は684名でした。研究発表件数は、一般発表308件、10の課題研究61件でした。久しぶりに対面による熱心な議論が展開されました。記念講演は、川原信夫氏（高知県立牧野植物園園長）による「牧野植物園の紹介と身近な薬用植物・生薬・漢方薬」でした。また、シンポジウム「現場教員の学会・研究活動参加



を促進させるために」が開催されました。更に、『理科の教育』誌公開編集委員会、研活大作戦～仲間とつながろう～、理科の学びと研究推進委員会～新たな展開の模索～等の委員会企画が開催されました。次回の滋賀大会は、2024年9月7日（土）から8日（日）に、龍谷大学で開催する予定です。本年度と同様に、一般研究、課題研究、記念講演およびシンポジウム等を計画しています。

最後になりましたが、日本理科教育振興協会による本学会への厚い支援に対して心より感謝申し上げます。

**第56回 全国小学校理科研究協議会研究大会 神奈川大会を終えて**

全国小学校理科研究協議会 会長 杉山 勇



令和5年11月16日（木）、11月17日（金）の2日間、第56回全国小学校理科研究協議会研究大会神奈川大会を開催しました。岐阜大会以来、4年ぶりの人数制限を設けない対面式の実施とし、1300名余りの参加者がありました。1日目は、関東学院大学関内キャンパステンネー記念ホールで、神奈川大会研究主題である「自然に親しみ、共に豊かな学びを創り続ける子どもの育成」について基調



提案を行いました。基調提案を受け、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 有本 淳先生に指導講評をしていただきました。大会2日目は、横浜市立井土ヶ谷小学校、横浜市立立野小学校、川崎市立下沼部小学校の3校で、授業公開と研究提案を行いました。GIGAスクール構想の推進による1人1台端末の活用も積極的にされており、今後の授業改善の方向性を示すものでした。全国の研究実践の報告と協議も行われ、全国各地区での研究が、ポストコロナの中、一層の推進が図られていることを感じることができました。

本大会を開催するにあたり、公益社団法人 日本理科教育振興協会様からは会長からの御祝辞や、開発教材コンテストを始め大会運営において、多大なるご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

**令和6年度政府予算案が発表されました**

■理科教育設備整備費等補助金（理振予算） 17.16億円（令和5年度予算 17.16億円）

■理科教育における観察実験支援事業 1.96億円（令和5年度予算 1.96億円）

・小中学校における理科の観察・実験を支援する補助員を配置

（観察実験アシスタント＝Preparation Assistant for Scientific Experiments and Observations）…補助率1/3

関連予算

■スーパーサイエンスハイスクール支援事業 22.9億円（令和5年度予算 23.8億円）

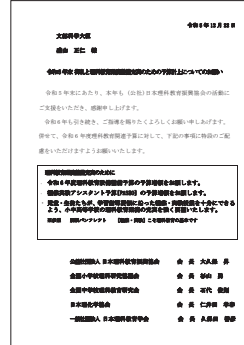
## 令和5年度 理科教育設備整備予算増に向けた活動

### 文部科学省への要望活動

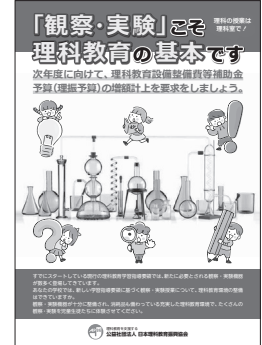
令和5年12月度に、公益社団法人日本理科教育振興協会の理事をはじめ、各理科団体役員と一緒に文部科学省理科教育関連部署に、理科教育充実のための要望訪問をいたしました。

#### 要望内容

- 令和6年度の理科教育設備整備費等補助金の増額
- 消耗品費の十分な確保
- 理科実験支援員の確保
- 観察・実験のできる場所の確保



要望文書



予算計上パンフ



藤原章夫事務次官様を囲んで



矢野和彦初等中等教育局長を囲んで

### 自治体への要望活動

岐阜県教育庁と岐阜市に令和6年度理科教育予算増額計上の陳情を行いました。岐阜県理科教育・教材備品協会の皆様方と理振協会及び幹事企業の方々と訪問いたしました。

11月14日(火)

#### 要望内容

- 令和6年度理科教育予算増、
- 消耗品費予算増、実験支援員増、
- 理科実験を行える場所の確保



岐阜県教育委員会の皆様と



岐阜市 水川和彦 教育長を囲んで

### 第11回科学の甲子園ジュニア全国大会が開催されました

本年は、本来開催地の姫路市文化コンベンションセンター アクリエひめじにて4年ぶりに、観客を入れての開催となりました。開催期間は、令和5年12月8日(金)から12月10日(日)で、予選となる都道府県大会には26,369人の生徒がエントリーされ、過去最多参加の大会となりました。

総合成績第2位の宮崎県代表チームに、(公社)日本理科教育振興協会賞が授与されました。その他、理振協会幹事企業各社の賞も授与されました。

総合成績 第2位 日本理科教育振興協会賞	宮崎県代表チーム
筆記競技 第2位 内田洋行賞	千葉県代表チーム
実技競技② 第1位 SHIMADZU 賞	島根県代表チーム
実技競技② 第2位 ケニス賞	宮崎県代表チーム
フレッシュマン応援・ナリカ賞	栃木県代表チーム





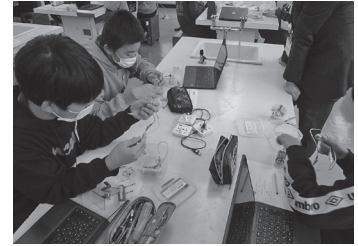
## 令和5年度復興教育支援事業

昨年から継続して、広島県・熊本県の水害被災地の小学校を対象に理科実験支援事業を実施いたしました。

理振協会幹事企業が、最新の実験機器を持ち込み実験授業を実施しました。被災地の児童たちは、たいへん喜んで理科実験を体験していただきました。授業後に児童達から感謝の手紙もいただいた学校もあり、実施させていただいた理振協会会員企業もとても嬉しく思いました。



府中市国府小学校



球磨村渡小、一勝地小

実施期間 10月～12月

実施地区 岡山県倉敷市 7校 広島県府中市 1校 熊本県人吉市 1校 球磨村 2校  
4自治体 11校 児童数 878名 39時間

## 理科教育設備整備費等補助金事業・台帳作成説明会

### 北海道教育厅との協働開催

北海道教育厅義務教育課様との協働で、理科教育設備整備費等補助金事業・台帳説明会を実施いたしました。

日時 令和5年12月19日(火) 午後2時～4時

講師 文部科学省初等中等教育局

場所 U-cala 内田洋行北海道支社スタジオ (WEB配信)

視学官 藤枝 秀樹 先生

隣席者 北海道教育厅 義務教育課 遠藤 直俊課長

(公社)日本理科教育振興協会

〃 上野 奈美課長補佐

常務理事 石崎 裕行

〃 斎藤 孝二係長

聴講者 61名(十勝支庁管内自治体1市16町2村)

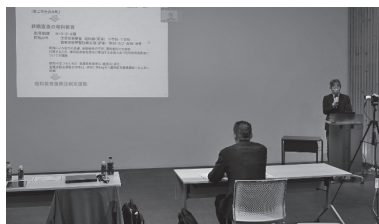
〃 山城 達也主任

地区	道教委	市町村教育委員会	小中学校	計
帯広市	1	1	2	4
他市町村		17	15	32
計	1	18	17	36

### 【配信の様子】



北海道教育厅 遠藤課長挨拶



講師 藤枝視学官

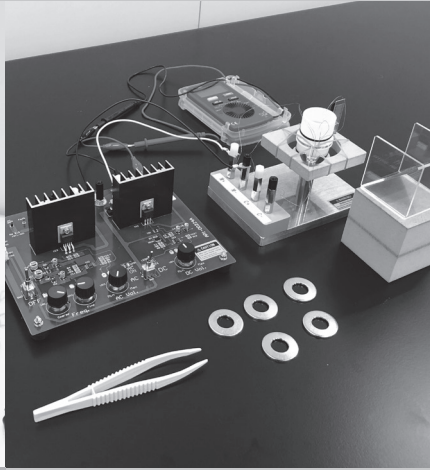
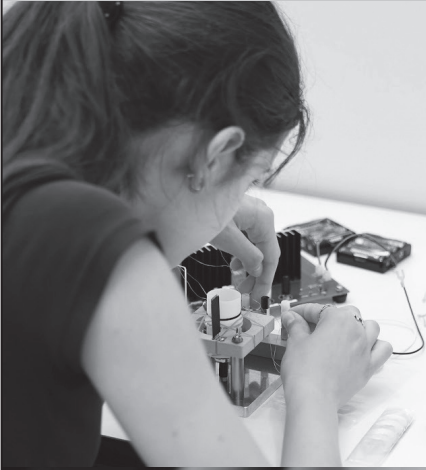
内田洋行U-calaスタジオからライブ配信で行われました。事前に提示されていた質問にもパワーポイントを提示して答えることができました。引き続き、次年度も他支庁対象に、今回と同じようにセミナーを実施する計画を頂けることになりました。

## 令和5年度・秋 理科教育設備整備費等補助事業・台帳作成説明会 実施報告

開催地	実施日	講師	参加者
名古屋会場 安保ホール	10月19日(木)	文部科学省初等中等教育局 教科調査官 真井克子 氏	学校法人 17、教育委員会 6 計23名
東京会場 連合会館	10月24日(火)	文部科学省初等中等教育局 教科調査官 真井克子 氏	学校法人 33、教育委員会 10 計43名
福岡会場 アクア博多	10月31日(火)	文部科学省初等中等教育局教育課程課 視学官 藤枝 秀樹 氏	学校法人 6、教育委員会 2 計8名
大阪会場 OMMビル	11月2日(木)	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 小林 一人 氏	学校法人 10、教育委員会 3 計13名

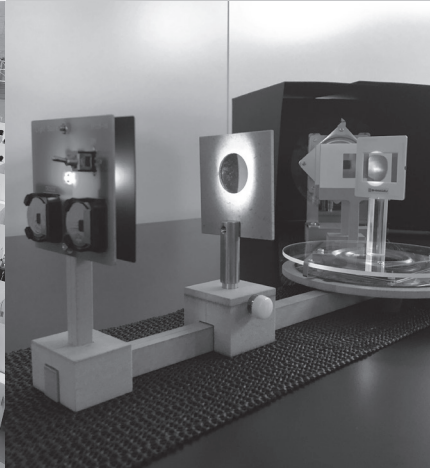
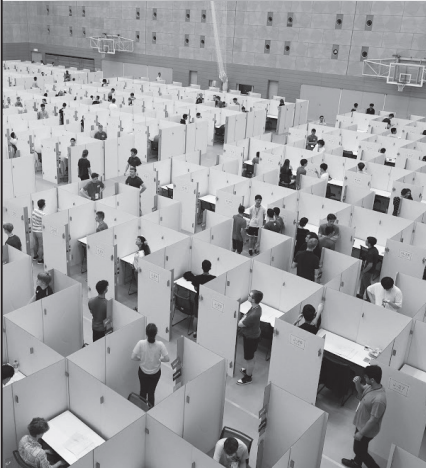
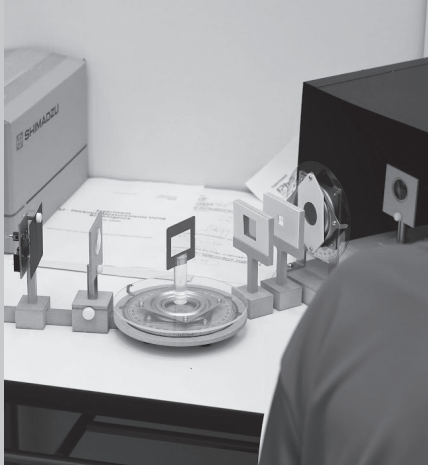
当説明会は、平成28年から本年までのべ70会場で実施いたしました。

これまで累計で、学校法人 1,258校、都道府県市区町村自治体 643自治体、累計参加者 2,875名 が受講されました。



**伝統を受け継ぎ，  
未来へ進む。**

当社は創業者の志を受け継ぐと共に、  
社会の発展にあわせて  
事業領域を広げて参りました。  
社会環境が大きく変化していく中で、  
「教育と研究の総合技術会社」として、  
社会に貢献すべく、  
チャレンジを続けていきます。



大会写真提供: 一般社団法人国際物理オリンピック2023協会

**国際物理オリンピック2023日本大会で  
島津理化が製造した実験装置を使った2つの実験問題試験が行われました。**

弊社の事業・製品情報はこちら

**島津理化**  **検索**



実験動画